

IBM Storage Insights for IBM Spectrum Control

本「サービス記述書」は「クラウド・サービス」について規定するものです。適用できる注文関連文書には、お客様の発注に関する価格設定および追加的な詳細情報が記載されています。

1. クラウド・サービス

1.1 オファリング

お客様は、利用可能な以下のオファリングから選択することができます。

1.1.1 IBM Storage Insights for IBM Spectrum Control

IBM Storage Insights for IBM Spectrum Control は、診断イベント表示、主要な容量とパフォーマンスのメトリックを示すストレージ環境の統一されたビュー、ならびにストレージ資源のパフォーマンス、容量および健全性を示す包括的なビューを提供します。このオファリングは、インテリジェント・キャパシティー・プランニング、ストレージ再利用、ストレージ階層化、および高度なパフォーマンス・メトリックなどの機能を提供します。ユーザーが監視できるストレージ・システムには、IBM のファイル、オブジェクト、ソフトウェア・デファインド・ストレージ (SDS) システム、および EMC ストレージ・システムなど、IBM 以外のブロック/ファイル・ストレージ・システムが含まれます。

この「クラウド・サービス」では、お客様は、オンプレミス・プログラムの IBM Spectrum Control に対する適切なライセンス資格を事前に取得する必要があります。

2. データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート

IBM のデータ処理補足契約書 (<http://ibm.com/dpa> に公開。「DPA」) のほか、以下のリンクの「データ処理およびデータ保護に関するデータ・シート」(データ・シートまたは「DPA 別表」) にも、「クラウド・サービス」およびそのオプション (処理対象の「コンテンツ」の種類、対象となる処理活動、データ保護機能、および「コンテンツ」の保存および返却についての仕様に関連) に関する追加的なデータ保護情報が記載されています。EU 一般データ保護規則 (EU/2016/679) (GDPR) が「コンテンツ」に含まれる個人データに適用される場合に、その適用範囲に限り、DPA が適用されます。

<https://www.ibm.com/software/reports/compatibility/clarity-reports/report/html/softwareReqsForProduct?deliverableId=1400519678292>

3. サービス・レベルおよびテクニカル・サポート

3.1 サービス・レベル・アグリーメント

適用外。

3.2 テクニカル・サポート

「クラウド・サービス」のテクニカル・サポート (サポート窓口の連絡先情報、重大度レベル、サポート利用可能時間、応答時間、その他のサポート情報およびサポート・プロセスなど) を参照するには、IBM サポート・ガイド (<https://www.ibm.com/support/home/pages/support-guide/>) の「クラウド・サービス」を選択します。

4. 料金

4.1 課金単位

- 「クラウド・サービス」は無償でご利用いただけます。

5. 追加条件

2019年1月1日より前に締結されるクラウド・サービス契約書(または同等のクラウド基本契約)については、<https://www.ibm.com/acs>に掲載されている条件を適用します。

5.1 クラウド・サービスの使用に関する制限

この「クラウド・サービス」では、お客様は、IBM Spectrum Control (以下「プログラム」といいます。)の適切なライセンス資格を事前に取得し、本「クラウド・サービス」とは別個に取得される、「プログラム」について利用可能な「IBM サブスクリプション & サポート」を保持していなければなりません。「プログラム」を使用するためのお客様のライセンス、または「プログラム」のお客様の「IBM サブスクリプション & サポート」のいずれかが終了した場合、お客様の「クラウド・サービス」を使用する権利は終了します。

6. オーバーライド条件

6.1 データの利用

両当事者間の「クラウド・サービス」基本条件の「コンテンツおよびデータ保護」項にいかなる矛盾する規定があっても、以下の条件が優先します: IBM は、お客様の「クラウド・サービス」の利用によって生まれるお客様の「コンテンツ」に固有のものである結果(以下「洞察」といいます。)や、お客様を特定できる結果を利用したり開示したりしません。ただし、IBM は、個人を特定する情報を削除し、追加情報を用いなければいかなる個人情報も特定の個人に結びつけることができないようにしたうえで、「クラウド・サービス」を提供する過程で、「コンテンツ」および「コンテンツ」に由来するその他の情報(「洞察」を除きます。)を使用できます。IBM は、研究、テスト、およびオフリング開発の目的でのみ、このデータを使用します。